

本校における「思春期健康教育」の取り組みについて

八千代市立阿蘇中学校

1. 本校の概要

本校は八千代市の北東部にあたり、国道16号線沿いの米本地区に位置している。学区は、神野、米本、保品、上高野、下高野、米本団地の6地区からなっており、学区内の米本、米本南、阿蘇の3小学校から入学生を迎えている。都心から40kmという地理的条件と米本団地の造成により昭和60年には生徒数も1,000人を超えたが、それ以降年々減少し、現在は1学年40名、2学年62名、3学年65名、特別支援学級1名、在籍生徒数168名となり、市内で2番目に小さい中学校となった。

保護者は学校行事に対して協力的で、本校卒業生も多いため、保護者間の結びつきは強い。しかし、ひとり親家庭や保護家庭が多く、家庭の教育力に期待できないと思われる生徒も少なくない。かつては生徒指導困難校であった時期もあったが、現在は生徒指導上の問題も少なく、落ち着いた学校生活を送っている。

2. 本校における思春期健康教育の実践

(1) 保健体育授業における保健学習

保健体育科の学習指導要領の保健分野では、3年時に「健康な生活と疾病の予防」を指導し、その内容として「感染症の予防」の中で後天性免疫不全症候群（エイズ）および性感染症についても取り扱うこととしている。昨年度、本校では「性感染症の予防」と「エイズの予防」の単元の授業を行う際、「エイズの予防」については八千代市思春期保健ネットワーク会議が作成したオリジナル教材を使用して実施した。この教材は、平成18年8月に発足した八千代市思春期保健ネットワーク会議が、子ども達の生と性の教育の充実を目指して作成した。身近な千葉県や八千代市のデータを利用し、八千代市に関係する人がVTRに登場するなど、子ども達に他人ごとではなく自分のこととして捉えてもらえるような工夫がされている。教科書「新しい保健体育（東京書籍）」（平成24年度指導要領改訂）に準拠しており、授業者が使用しやすい形を選択できるよう、メインの知識部分の授業を展開する教材はVTRとパワーポイントの両方が用意されている。今年度の授業は2月に実施予定であるが、引き続きオリジナル教材を使用して実施したいと考えている。

教科担当教諭の感想)

- ・ VTRではチーバくんや、やっち（八千代市のイメージキャラクター）の登場などで生徒も見やすいものとなっていた。



- ・ ワークシートは重要なところを押さえており、活用しやすかった
- ・ 初めて活用したがとても使い易く、授業もスムーズに進めることができた。

(2) 学級活動における「思春期健康教育」

本校では平成11年より3年生に対して学校医の・堀厚先生に講話を依頼し、継続して実施している。また1年生や2年生に対しては、習志野健康福祉センターの事業として「青少年に対するエイズ対策講習会」や「エイズ・性感染症対策講習会」を実施し、千葉県エイズカウンセラーや性の健康カウンセラー、思春期保健相談士、高校教諭等の講師を迎えていたが、現在では3年生同様に学校医の柳堀先生に講話を依頼し、2年生と3年生でそれぞれ段階を追った思春期健康教育を実施している。

3年生対象：思春期健康教育講座

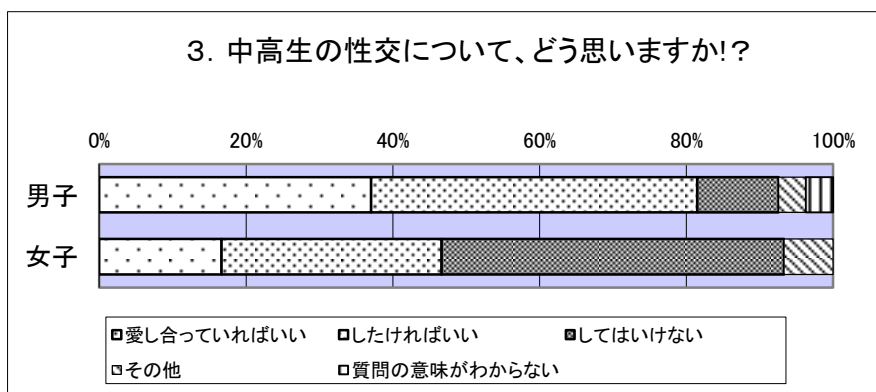
目的 ①性について正しい知識を持たせる。

②性に関する意識や中学生としての行動選択のあり方を身につけさせる。

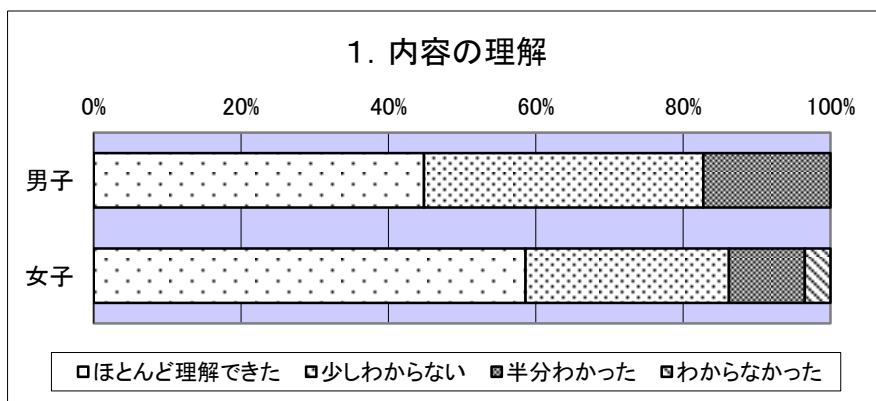
日時 平成29年7月12日(水) 11:40～12:30

テーマ 「思春期の男女のからだと心の変化 ～お互いを大切にするために～」

事前アンケート結果)



事後アンケート結果)



- ・自分の一方的な思いで、相手に無理やり嫌なことをさせないようにしようと思った。
- ・今日の講演は少し刺激的な言葉とかもあったけど、人として成長するためにはとても大切なことだと思った。
- ・前までは笑っていた話が、この講演でとても大切なことだとわかった。
- ・将来に役立つ話を聞いてよかった。しっかりと正しい知識を身につけた大人になりたい。
- ・今まで他人事だと思っていたけど、これから重要になると思った。
- ・自分たちのことに向き合うことができた。
- ・なかなか知ることができない話や、知っていなくてはいけないことが聞いてよかった。



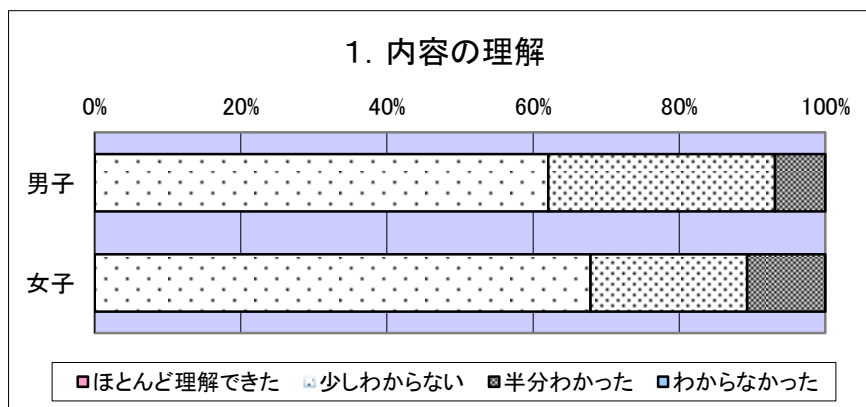
2年生対象：思春期健康教育講座

- 目的 ①思春期のからだや心の変化を理解させる。
 ②男女が互いに理解を深め、相手の人格を尊重する心情や態度を育てる。

日時 平成28年12月14日(水) 11:25～12:10

テーマ 「思春期の君たちに ～性のお話～」

事後アンケート結果)



- ・自分の体について知ることができたことと、異性との関わり方について知れたことがよかった。
- ・女性は男性よりつらい思いをしているから、これからは女性に優しくしてあげる。
- ・男女で心や体は違うけど、お互いを思いやることが大切だと思った。



- ・ いつもは変な意味で使っていたけど、話を聞いて意味を理解できたから、ふざけて使っちゃダメだと思った。個人差があるからバカにしちゃいけない。
- ・ 今まで僕は、SEXのことをえろいこととっていました。ですが、今日の先生のお話を聞いて、えろいことではないとしっかりとわかった。
- ・ 月経等に関することがよくわかったので、生活の中で友達と相談したりできるようになったと思う。

(3) 八千代市思春期保健ネットワーク会議からの情報発信

思春期保健ネットワーク会議では、子どもたちが性に関する正しい知識を得られるサイトや相談機関等の情報を提供するため、中学生向けリーフレットを作成し、平成26年度より配布している。今年度は中学1年生とその保護者への配布があったため、保護者会に合わせて生徒と保護者へ配布し、情報提供を行った。



3. 成果と今後の課題

体育科の保健授業ではオリジナル教材の活用で、生徒の興味を引くような授業が実践されている。また学校医の協力のもと、継続的な思春期健康教育講話が実施され、生徒も教員も「2年生と3年生は思春期の話は聞くもの」として認識しており、学校保健年間計画で位置づけている。講師が学校医であるため、検診時の生徒や学校の様子が把握され、生徒の実態に合わせた講話が毎年実施されている。また、八千代市には思春期保健ネットワーク会議という組織があり、八千代市の子どもたちが自己を肯定し、仲間やパートナーを大切に、思いやりを持った素敵に成長してくれること…を目指した情報発信が常にされており、それを活用した情報提供をする際には、生徒も関心を持って受け止めている様子が見受けられた。

今後はさらに思春期健康教育を効果的に進めるために、講話にはより多くの保護者に一緒に聞いてもらえるよう呼びかけたり、授業参観等でも話題にしたりしていきたいと考えている。そして、家庭、地域とも連携を図りながら、継続的、系統的に取り組んでいきたい。